

きんもくせい



「子供たちの幸せのために」

静岡県養護教諭研究会 副会長 山村 恵美子

静岡県養護教諭研究会の役員として携わるようになり1年になろうとしています。この間、多くの方との出会いや学ぶ機会があり、自分自身がまさに研究会今期のキーワードである「やってみよう」の1年でした。

養護教諭80周年を記念した夏季研修会では、学校保健・養護教諭の歴史を振り返り、諸先輩方の熱い想いに触れるとともに、「養護教諭で良かった」という思いを強くし、勇気をいただきました。冬季研修会では、子供の心のケアについて組織の一員として何ができるかを考え、養護教諭として注意深く子供を見つめ、支援することの大切さを実感しました。

いずれの研修会においても感じたのは、時代の変化とともに、健康課題も変化していますが、「養護教諭として大切にしたい基本的な部分は変わっていない」ということです。

現在は、コロナ禍により感染症対策として、健康観察が重要視され、手洗いやマスク、換気についても当たり前のように行われるようになりました。また、食事や睡眠をきちんととることやセルフケアをすることが心の安定に繋がり、レジリエンスを高めるということも学び、子供たちに伝えてきました。しかし、これらの「感染症対策」や「基本的な生活習慣」については、コロナ禍以前も繰り返し子供たちに指導してきたことです。

目の前にいる子供たちが健康課題を自分事として捉え、考え、実践力を身に付けていくことが、子供たちの幸せに繋がると願い、今日も子供たちと関わっています。



冬季研修会 報告

講話「『予測困難な時代』における子供の心のケア」

講師 静岡大学教育学部 教授 小林 朋子 氏



オンデマンドで行われた冬季研修は、多くの会員が聴講しました。

小林先生の講演から、災害を想定した準備の大切さや、その後の心のケアの理論について学ぶことで、養護教諭としてできることを、一人一人がより深く考えることができたのではないのでしょうか。

また、小林先生からは「資料は、養護教諭のために作りました。お便りや指導に活用してください。」と、とても心強く温かいお言葉をいただきました。(研究会のホームページで紹介しています。)

冬季研修会報告については、第3回代表者研修会資料、ホームページもご覧ください。

地区紹介



東豆地区



東豆地区は、伊東市・熱海市の2市からなり、小学校16校、中学校9校（小中併設校2校を含む）で、会員数は23名で組織されています。研修テーマは、伊東市「困難な状況の中でも立ち直る力を持ち、しなやかに適応する子の育成をめざして」、熱海市「しなかやでへこたれない心の力を育てよう」として研修を進めています。年3回の全体研修会のうち、1回目と3回目の全体研修会では、両市の研修を報告し合い、意見交換しています。2回目の全体研修会では、伊東市子育て支援課の岡村めぐみ主幹を講師に迎え、「学校における児童虐待の対応と予防～養護教諭の役割～」をテーマとし、「発生予防」や「再発防止」について講話をいただきました。



その他、伊東市は「レジリエンス」、熱海市は「養護教諭が行う心の教育」をテーマに、静岡大学の小林朋子先生を講師に迎え、学習会を行いました。今後も、両市で情報交換しながら充実させ、研修を深めていきたいと思ひます。

磐周地区



磐周地区は、2市1町（磐田市・袋井市・森町）からなり、小学校37校（複数配置2校）、中学校16校（複数配置2校）、会員数57名で組織されています。「生涯を通して、自ら生きる力を育てる健康教育～心身ともに健康な生活を送るためのヘルスリテラシーの育成～」を令和4年度からの新たな研修テーマに設定し、今までの取組を土台にしながら、これからの時代に即した研修となるよう、試行錯誤しながら進めているところです。

今年度の全体研修会では、静岡大学教育学部教授の鎌塚優子先生をお招きして、「ヘルスリテラシーの健康教育への活用方法について」というテーマでお話をいただきました。講話やグループ活動での助言を通して、研修テーマにある「ヘルスリテラシー」について理解を深め、実践をしていく上での手がかりを得ることができました。今後も、限られた研修機会の中で、磐周全体のつながりを意識し、情報共有しながら取り組んでいきたいと思ひます。



実践の紹介を、ありがとうございます。

会誌「たちばな」、ホームページ「保健室訪問 掲示物」に実践の紹介を掲載しました。ホームページの保健室訪問（掲示物）では、03 歯と口の健康（焼津市立黒石小学校）12 けが予防（浜松市立積志小学校）（浜松市立神久呂中学校）13 目の健康（静岡市立清水袖師小学校）17 感染症予防（島田市立島田第三小学校）99 その他（静岡市立清水小島中学校）が加わりました。